

## 2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 立命館小学校 ] 担当教諭名 [ ミツ木 由佳・室田 太郎 ] ( 3・4年有志児童 21名 )

相手国・地域 [ ロシア ]

海外学校名 [ Secondary school No.19 ] 担当教諭名 [ Dina Averyanova ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	課外活動	アートマイル活動	13時間

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	「未来に残したい平和と幸せ」
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	今の世界を生きている子ども達が、平和や幸せについて家族や友達と共に考えてみたところ、この先の未来にもずっと大切にしていきたいことやものは、日常生活の中にある自然やその移り変わり、家族との時間、そして子ども達にとっての嬉しい・楽しいが詰まった場所やそこに集う人々でした。それらはどれもとても身近なものであり、地球上のどこであっても、残していきたいとても身近な平和と幸せです。
	

### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
初めて参加するにあたり、課外活動として取り組んだが、スタートの時点から新しい出会いに対して意欲的な集団であったため、取り組み自体が終始非常に活発で、ロシアについて知ること、関わること自体が楽しいものとして経験できたことがよかった。	時間的な制約の中で取り組んだ取り組みであったが、放課後の限られた時間設定の中で、相手校との時間感覚の違いにより、予定していたものが当日キャンセルになるなど、想定外のことへの対応に苦心した。この課題以外は、児童の学びにつながった。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
非常にワクワクした気持ちでスタートし、これまで繋がりをもったことのない国との接点を持つことができたわけだが、スカイプでの交流などを通し、共通点を見出したりする中で、児童にとっては世界とつながることは特別なことではなく、「当たり前」になりつつあることを感じた。	教員自身も接点を持ったことのない国であったため、交流自体はとても楽しく進めることができた。時間感覚の違いなど、国の違いなのか個人差なのかはわからないが、困ることも多少あったが、そういったことも含めて、どの国の教員も忙しく子どものために動いていることを感じ、身近に感じる機会となった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 8月	・簡単自己紹介(好きなものを絵にする、スポーツ・食べ物等)→絵を見せながら自己紹介の動画作成 ・家族と一緒にテーマに沿って考えたことを言葉と絵にしてみる	英語でのコミュニケーションが必要な相手との交流を非常に前向きに捉えており、動画作成にあたって、伝えることに一生懸命であった。	課外活動
共有 テーマ学習	9月	・夏休み課題であった「日本の子どもに人気の遊び」「食べ物」「夏休みの過ごし方」「京都ってどんなところ?」をまとめて、動画撮影、フォーラムにて交流	家族とアイデアを出し合った内容をグループで交流し、京都について、自身の学校について伝えたい気持ちを素直に表現していた。	課外活動
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	10月 11月	・テーマに沿った類似点、相違点の意見交流 ・スカイプにて交流 ・デザイン素案の共有 ・デザインを基にしたテーマによるチーム分け	ロシアの児童とのスカイプ交流に対して、意欲的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。素案デザインにあたっては、京都の良さを前面出したい気持ちが伝わってきた。	課外活動
創造 壁画制作	12月	・デザインの下描き、色塗り、壁画完成 ・壁画と共に送るプレゼントの作成(手紙・折り紙お手本集・折り紙作り方ブックの作成)	完成に近づき、どんな絵に仕上がるのかとてもワクワクしながら取り組む姿が多く見られた。手紙も折り紙も「日本」を意識している様子があった。	課外活動
評価 振り返り 自己評価	4月	壁画が未到着のため、4月に活動予定		課外活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	絵の素案デザイン時、日本・京都をどのように絵に表現すればよいか、子ども達から声が上がリ、自文化の伝えたいという思いを感じた
異文化を理解する力	4	スカイプでは共通点を感じる場面があり、「ロシア」との接点を持ったこと自体が今後の児童の異文化理解につながるきっかけになったのではないかと感じる。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	3	自文化に気付く、言語化することからのスタートであったため、他者の思いや考えを聞き、交流する中でまとめていくことが中心となった
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	自己紹介の描画・日本紹介動画作成・スカイプ交流などの場面においても英語でコミュニケーションを取りたい意欲が行動に表れていた
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	発達段階的にも、交流自体を楽しむことが狙いとなっていた面もあり、自文化、異文化を比べたり客観的な視点を得るような場面には至らなかった
主体的に考え行動する力	4	デザイン考案時、「こうしたら?」「こんなものもあるよ!」など主体的に自分の意見やアイデアが活発に交流できていた
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手校との協働については、壁画が到着後感じることもかもしれないが、異学級・異学年児童集団の中で、それぞれに協働する場面があった
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	自己紹介の描画・日本紹介動画作成・壁画作成、どの活動場面をとっても、表現することを体いっぱい楽しみ満足そうな笑顔が多くみられた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)		壁画到着後の振り返りを通して考察したい